

FROM 浦和駅東口再開発 東口に新たなランドマークが誕生

市民活動サポートセンター

施設内容:ミーティングスペース、交流スペース、パソコンコーナー、印刷作業室、多目的展示コーナー、掲示ボード、書籍・資料コーナー
所在地:さいたま市浦和区東高砂町11-1(コムナーレ9階)
TEL:813-6400 FAX:887-0161
URL:http://www.saitamacity-support.jp
開館時間:9:00~21:30
休館日:年末年始(臨時に休館することもあります)



市内の市民活動団体などの資料が閲覧できる資料コーナーについて説明する三浦さん



市民活動サポートセンターのこれからについて話す福島さん

「整備計画検討当初から何十人も市民がワークショップに参加して、行政とともに」どのような使い方をするか、「どういうサービスが良いのか」など議論を重ねました。施設の運営については、より踏み込んだサービスを提供するため、実際に市民活動を行っている団体が行政と協働で携わることになりました。」と三浦さん。また、ワークショップ参加者の福島さんは、「サポートセンターという施設が完成した今後はどんなサービスを提供するかが重要です。市民の目線にたつて積極的に話し合っていきたい。」と話しています。利用者のニーズに的確に応えて、市民と共に施設を盛り上げていく意気込みを感じました。

オープンの準備には2年余という歳月が

ことを期待しています。」

市民活動サポートセンター

エレベーターを降りると、フロア全体に明るく日が差し、ガラスの向こうは緑の芝生。広々とした空間に驚かされます。はじめに、この施設の管理



市民リポーターがまちづくりの現場を見に行く「まちリポ」。今回訪れたのは、平成19年10月にオープンした東口再開発ビル。賑わう商業施設の上層階には、複合公共施設「コムナーレ」があり、屋外には、市民の憩いの空間として屋上庭園が広がります。まち探検が大好きで浦和に来て4年になる平澤さんがこれらの施設をレポートします。

3層の屋上庭園

また「コムナーレ」の屋外は屋上庭園となっており、8階と9階は憩いの空間として市民にも開放されています。「8階の中央図書館前には、外の空気を吸



センターのホームページを見ながら説明する大工原さん

サポートセンター ホームページ 市民活動サポートセンターは、ホームページでも積極的に情報を発信しています。「活動をしていの方だけでなく、これから活動したい人ももちろん地域や市民活動に関心のない人にも積極的に情報を提供して、地域社会と市民のネットワークが豊かに広がっていくために役立ちたいですね。」と話すのは、ワークショップの情報支援プロジェクトチームのリーダーとしてホームページの立ち上げに取り組んだ大工原さん。ホームページには、団体を登録して活動内容を公開することができるよう。皆さんもグループやサークル活動を登録して情報を発信してみたいかがですか。

駅前には市民の憩いの空間が出現 再開発ビルの前には、ゆったりとした市民広場が広がります。「ここは、待ち合わせや休憩の場だけではなく、各種イベント、ストリートミュージシャンなどの活動の場としても広く活用できます。」と瀧さん。周りには四季を彩る植栽スペースや壁面緑化が施され、環境共生への配慮が見られます。また、防災機能としても役立ち、ウッドベンチの一部は「かまど」として利用できるほか、公衆トイレの屋根の雨水を集めて水槽に貯めているそうです。 今回のリポーターでは、各施設の素晴らしいに加え、それに携わる方たちの熱意を身近に感じ、とても貴重な体験となりました。これからは趣味のまち



コミュニティ広場としての機能も兼ねる市民広場



中央図書館前に広がる緑豊かな憩いの空間



入り口に設置されている案内板。何がどこにあるかがひと目でわかる



開放感のあるミーティングスペース。いくつかの組合せができるよう、机の形状も工夫されている

者である「NPO法人さいたまNPOセンター」の三浦さんに施設の概要をお聞きしました。「この施設は市民活動を始めた、あるいは興味がある、という方をはじめ、実際に活動をしていて、それを広めたい、そのための打合せをしたい、という方々をサポートする施設です。」「間仕切り等は置かず、フリースペースにすることで、すべての市民に開かれていて誰でも利用してもらえ、お互いの活動の様子が分かることで様々なグループ同士の新しい出会いや交流などが促進される

探検の和を広げ、多くの人にその楽しさを体験して欲しいと思います。今度は子供といっしょに1日ゆつくりとここで過ごす予定です。



平澤 いずみ

浦和区在住。中学生と小学生のお子さんをもち、子供が通う小学校の50周年記念事業で、記念誌づくりを担当しています。「自分たちの住んでいるまちや人を知ること、そのまちへの愛着がわいて、大切にしようと思うようになります。そういうメッセージを記念誌づくりのなかで子供たちに伝えていきたい。」趣味は身近なまち探検で、お休みの日は子供たちと新しい発見を求めてまちを探索しています。